

居場所の大人にできること

- 子ども食堂篇 V -

馬渡 徳子

元旦の被災を受け、短信でも述べた「いしかわ家族面接を学ぶ会」の発起人である寺本紀子さん(以下寺本さんと略す)の呼びかけで、「報道されない支援が必要な各地の状況と、支援しようとする団体や人々の直近の状況を共有するグループLINE: のと応援隊」が立ち上がりました。

実のところ事務局員は、自身や家族が当事者であったり、職務上から休日もままならない激務の中に身を置いております。そのような中に、このグループLINEで直近の実情を共有し合い励まし合いながら、一日一日を前に進めています。

寺本さんと2004年4月に「いしかわ家族面接を学ぶ会」を立ち上げてからの15年は、事務局員は石川中央地区に限られソーシャルワーカーのみでしたが、コロナ禍を経て現在では能登地区にまで拡がり、職種も多様になりました。

講師の団さんと約束したことがあります。①地元でつながる多様な人々とともに活動すること、②公的資金に依存して受講費無料で実施することはしない、ということでした。

今回、20年の時を経て、阪神淡路大震災以降の大災害時に現地に赴き支援活動を行ってきたメンバーも多く、また事務局にフォーマル・インフォーマルな組織メンバーもいることを活かした活動ができていて、正に団さんと早樫さんのおっしゃられた「**継続は力なり**」を実感しています。

さて、我が子ども食堂では、1月4日に緊急三役会議を開きました。そこで決めたことは、①子ども食堂は止めない、②当事者となった方々の話をしっかりと傾聴する、様子の変化を観察し、気になることはスタッフで情報共有し、場合によっては当事者の同意のうえで専門職の支援につなぐ、③奥能登への支援は、元旦から活動開始して

いる母体の石川民主医療機関連合会の医療班活動を最優先し、現地のニーズに基いた支援物資と支援者支援金(ガソリン代等に充当)を届ける、④全国からいしかわ家族面接を学ぶ会の事務局員を通じて集まった支援物資は、ターゲットを絞って支援が届いていない状況にあるところや人々に届ける、⑤石川中央地区に自主避難、二次避難された子育て世代を中心とする家族全体に必要な支援物資は、受け入れ先となっている学校や学童保育、保育園、放課後児童等デイサービス、自治体の子育て支援課等に赴き、「子ども食堂において!のチラシ」を手渡し、実際に必要とされている物資をリサーチしながら、個々の組織としての主体的な取り組み状況に配慮しながら届けていく、⑥支援物資の作業は、当事者の方々や子どもたちにも呼び掛けて一緒に行く、⑦金沢大学の学生ボランティアは、それぞれがヤングケアラーや生活困窮者世帯等の学習支援、カタリバ等の活動をしていることから、想像力豊かな柔軟な知恵や力を発揮して頂こう、⑧今回の活動を通じて得られた各自治体毎の社会資源情報をまとめて、公的支援の拡充に提起していく、ということでした。

実際に、公式ラインとInstagramで広報すると即日に支援物資が集まり、毎週賑わっています。制服(標準服)とランドセルや中学の鞆、学用品のうち、小中学校の制服(標準服)は順に各学校PTAでも取り組みが拡がりましたので、ランドセルと学用品がとても喜ばれました。1月中旬からは大雪の日が

続きましたので、各保育園よりのスキーウェアのリクエストにも直ぐに応えることができました。子どもたちも大人も手に握ることができるサイズの気持ちの良い素材のぬいぐるみや抱き枕になるぬいぐるみがとても喜ばれました。また、物資を提供された子育て世代の方々からは、「何かしたいけれども、募金以外に何をすればよいかわからずもやもやしていた。今回具体的にできることを示してくれたので、嬉しかった。」学校、保育園や学童保育からは、「初めて保護者にも支援を呼びかけた。反響が手に取るようにあり、コロナ禍で停滞していた保護者会活動が活発化するきっかけとなった。」「職務上、奥能登にも避難所への職能団体にも応援に行けず、歯がゆい思いをしていたが、職場で迎える側としてできることを考えることができた。」との感想をいただきました。

高齢者の方々や地域の介護保険施設に避難してこられた方々は着の身着のまま来られていました。支援物資が山盛りになった1月中旬のことです。避難してこられた高齢者の方々が、「日中親戚の家に居て、とても気兼ねなので、こちらに来たら気分転換できるかな、何か手伝えるかなと思って電車できました」と申し出いただいたことから、高齢者向け物資の仕分けをお願いしました。施設の職員さんも来られて、「そうそう、こういう服が欲しかった。65でなくて50歳以上の方向けという仕分け表示は良いわねえ。」とのことでした。



支援物資仕分け作業の初日には、こんなこともありました。

私たちスタッフが、サイズと性別で段ボールに仕分けしようと記載していたら、子どもたちに「それは、今の時代にアウトやよ。サイズと種別だけでいい。」と指摘され、ハッとしました。学用品も、小中学校毎に規則があり、学校に持っていけるものと普段使いのものとの仕分け提案をされました。子どもたちでないと気付けません。以後表示や仕分け区分は、子どもたちにお願いしました。実際に来所いただいた方々からは、これは選びやすいねえと好評です。

集まった支援物資は、来所だけではなく、他の子ども食堂や奥能登の避難所となっている学校にもお持ちしてきました。

そうそう、のと応援隊では、3月の卒業式を前に、能登地区の高校の制服支援も OB を中心に拡がり、無事に間に合うことでできたそうです。

2月に入ってからは、2014年から毎週火曜日昼に継続してきたカレー食堂に、二次避難してこられた能登の

方々が、お互いに連絡を取り合って食事と交流を目的に来所されるようになりました。そこで、始まったのが、2月20日からの交流会です。こちらの企画のファシリテーターは奥能登で元公民館主事をされてこられた方です。ホストも能登の方というところが良いなあと思います。どうやって連絡を取り合ってこられたのかと伺うと、震災前に長く地域で健康教室やレクリエーション活動のリーダーをしてこられた方が、毎週一回地元に戻り、こつこつとご自宅や避難所への訪問を重ねて、メンバーの現在の居所を尋ねられたそうです。二次避難先でも、電話や待ち合わせをして対面で逢うなど、孤立しないように、有益な正しい情報を取得して必要な手続きや行動選択ができるように支え合っていました。

私たちスタッフは、その席に居て、「果たして自分たちはこのような行動がとれるだろうか。人生の先輩方から学ぶことばかりだなあ。」と率直にふりかえる機会となりました。

さて、2017年に子ども食堂を開催するときに、皆で約束したことがありました。

①子どもたちは、ファーストネームで呼びましょう、②誰れをも排除しない、③いろんな人々が関わっていることを愉しみましょう、④誰もが、居たいようにいられる場所をつくりましょう。⑤あつたらしいなと思われる制度は、どんどん行政に提案しましょう。

体験しないと観えていなかった世界があった。

体験したからこそ
自分のからだの声に
素直に耳を傾けながら、
自分と大切な人々を守るために
やれることを考え生きていきたい。

どんな未来を手渡すのか
まわりの人々と一緒に
考えながら歩みを進めたい。

何でも語り合しましょう 能登からの避難者あつまれ!

2月20日(火) 14時~16時

お屋はえがおカレー食堂へ
11時30分~13時30分

毎週火曜・被災者は無料です

お知り合いの避難者にお知らせください

えがお会館大ホール
金沢市上荒屋1丁目380



西ブロック健康友の会
連絡先 076-281-6020
矢澤 幸恵
090-8261-6760

2024年2月25日